

社内の情報を共有化

「見える化」体制の構築へ

共栄印刷(株)（本社／福島県郡山市、有賀隆宏社長）は、ピー・エス・シー(株)の「印刷管理システム」を今年3月に導入し、7月より本格稼働を開始している。既存の業務管理システムのバージョンアップを控えた同社では、さらなる業務効率向上の実現を目指し、新システムへの移行を決断。新システムでは、従来システムの機能を完全移行するとともに「原価管理」機能などを拡充し、業務の「見える化」を実現している。

共栄印刷

同社は、昭和42年3月の創業。以来、名刺印刷からスタートした事業は、現在、自費出版・チラシ・ポスター・カタログ印刷の分野にまで拡張している。「共に創り共に絆ぎ（つなぎ）共に歩む」をスローガンに掲げ、良品質・環境改善・安全管理に取り組み同社の企業方針は、多くの顧客から高い評価と信頼を得ている。

その同社では今年3月、さらなる業務効率の向上を目的にピー・エスの「印刷管理システム」を導入した。実は導入以前の同社では、これまで他社の業務管理システムによる運用を行っていた。その既成システムは、ときに差異が生じることがあった（有賀社長）。

有賀社長は説明する。「既設システムにも『原価管理』の機能は搭載されているが、使い勝手が悪く、結果としてその機能を活用することはなかった。そのため『原価管理』については、アステムだ。有賀社長は、多くのメーカーのシステムを検討したが、最終的に自社の新たな業務管理システムとして『印刷管理システム』を選

択した。その選択理由として有賀社長は「当社は、生産部門をはじめ、営業、生産管理など複数の部署が存在する。そのため部署ごとに作り上げた機能を一貫させることが、実務上難しい。また、操作面で使いやすさ、コストを抑えられること、これらの要望をすべて満たしていたのが、『印刷管理システム』だ（有賀社長）。

新システムの運用プロセスも変わった。以前は、印刷現場から直接発注していたのが、今では、印刷現場から直接発注するケースもなくなった。しかし、印刷現場で発注する場合は、その資材の数量、納期は把握しているが、その価格、つまり、その資材がいくらで仕入れているのかまで把握できていなかった。

「資材の仕入れ価格を印刷現場が共有できることができていない。現時点では、原価意識が高まれば、と考えている。また、これまで現場が直接発注した資材について、今年7月より本格運用を開始している同社は、これにより外出先でもタブレットなどへ進捗状況を共有できる。そのためのデータを確保する必要がある。現時点では、まだ限定的なものであるが、将来的には、すべての情報を確認できるようになる」と有賀社長は、今後の展望を語っている。

「原価管理」機能は、搭乗コストを見直し、自社に合わせた機能を実現することを目指している。また、操作面で使いやすさ、コストを抑えられること、これらの要望をすべて満たしていたのが、『印刷管理システム』だ（有賀社長）。

また、当初の目的であった「原価管理」機能に、原価管理の機能は別として、新たに「人件費」を計上できるようなカスタマイズを要望したという。「諸資材コストだけでなく、人件費も把握したい」と有賀社長は、生産部門をはじめ、営業、生産管理など複数の部署が存在する。そのため部署ごとに作り上げた機能を一貫させることが、実務上難しい。また、操作面で使いやすさ、コストを抑えられること、これらの要望をすべて満たしていたのが、『印刷管理システム』だ（有賀社長）。

また、新システム導入以前は、印刷現場から直接発注していたのが、今では、印刷現場から直接発注するケースもなくなった。しかし、印刷現場で発注する場合は、その資材の数量、納期は把握しているが、その価格、つまり、その資材がいくらで仕入れているのかまで把握できていなかった。

「資材の仕入れ価格を印刷現場が共有できることができていない。現時点では、原価意識が高まれば、と考えている。また、これまで現場が直接発注した資材について、今年7月より本格運用を開始している同社は、これにより外出先でもタブレットなどへ進捗状況を共有できる。そのためのデータを確保する必要がある。現時点では、まだ限定的なものであるが、将来的には、すべての情報を確認できるようになる」と有賀社長は、今後の展望を語っている。

「資材の仕入れ価格を印刷現場が共有できることができていない。現時点では、原価意識が高まれば、と考えている。また、これまで現場が直接発注した資材について、今年7月より本格運用を開始している同社は、これにより外出先でもタブレットなどへ進捗状況を共有できる。そのためのデータを確保する必要がある。現時点では、まだ限定的なものであるが、将来的には、すべての情報を確認できるようになる」と有賀社長は、今後の展望を語っている。

「資材の仕入れ価格を印刷現場が共有できることができていない。現時点では、原価意識が高まれば、と考えている。また、これまで現場が直接発注した資材について、今年7月より本格運用を開始している同社は、これにより外出先でもタブレットなどへ進捗状況を共有できる。そのためのデータを確保する必要がある。現時点では、まだ限定的なものであるが、将来的には、すべての情報を確認できるようになる」と有賀社長は、今後の展望を語っている。

「資材の仕入れ価格を印刷現場が共有できることができていない。現時点では、原価意識が高まれば、と考えている。また、これまで現場が直接発注した資材について、今年7月より本格運用を開始している同社は、これにより外出先でもタブレットなどへ進捗状況を共有できる。そのためのデータを確保する必要がある。現時点では、まだ限定的なものであるが、将来的には、すべての情報を確認できるようになる」と有賀社長は、今後の展望を語っている。

「資材の仕入れ価格を印刷現場が共有できることができていない。現時点では、原価意識が高まれば、と考えている。また、これまで現場が直接発注した資材について、今年7月より本格運用を開始している同社は、これにより外出先でもタブレットなどへ進捗状況を共有できる。そのためのデータを確保する必要がある。現時点では、まだ限定的なものであるが、将来的には、すべての情報を確認できるようになる」と有賀社長は、今後の展望を語っている。

「資材の仕入れ価格を印刷現場が共有できることができていない。現時点では、原価意識が高まれば、と考えている。また、これまで現場が直接発注した資材について、今年7月より本格運用を開始している同社は、これにより外出先でもタブレットなどへ進捗状況を共有できる。そのためのデータを確保する必要がある。現時点では、まだ限定的なものであるが、将来的には、すべての情報を確認できるようになる」と有賀社長は、今後の展望を語っている。



アナログ作業の完全データ化を実現

ため、当社の条件を満たすかたちでシステムを構成してもらっている」と説明する。

また、新システムでは、全社員にID番号を持たせることで、部門を問わず、いつでも、誰でも、何をやったか、といった情報をデータとして確認できるよう仕組みを構築している。

「制作部門や印刷部門では、作業の始まりから終わりまでを入力するこ

とで、自身の作業日報に反映できるようにしている。これにより、作業の進捗状況を各スタッフが把握できるようになっている（松井係長）。

また、新システム導入以前は、印刷現場から直接発注していたのが、今では、印刷現場から直接発注するケースもなくなった。しかし、印刷現場で発注する場合は、その資材の数量、納期は把握しているが、その価格、つまり、その資材がいくらで仕入れているのかまで把握できていなかった。

「資材の仕入れ価格を印刷現場が共有できることができていない。現時点では、原価意識が高まれば、と考えている。また、これまで現場が直接発注した資材について、今年7月より本格運用を開始している同社は、これにより外出先でもタブレットなどへ進捗状況を共有できる。そのためのデータを確保する必要がある。現時点では、まだ限定的なものであるが、将来的には、すべての情報を確認できるようになる」と有賀社長は、今後の展望を語っている。

シリーズ ユーザー企業ルポ

攻めへの選択



有賀 社長



共栄印刷外観

「資材の仕入れ価格を印刷現場が共有できることができていない。現時点では、原価意識が高まれば、と考えている。また、これまで現場が直接発注した資材について、今年7月より本格運用を開始している同社は、これにより外出先でもタブレットなどへ進捗状況を共有できる。そのためのデータを確保する必要がある。現時点では、まだ限定的なものであるが、将来的には、すべての情報を確認できるようになる」と有賀社長は、今後の展望を語っている。